

Citation: Jirong Y, Yang X, Wu T, Defen S, Dong B. Zhiling decoction for vascular dementia. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2004, Issue 4. Art. No.: CD004670. DOI: 10.1002/14651858.CD004670.pub2.
CRG名: Dementia and Cognitive Improvement

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 5 May 2008
Clib issue No.; N/U: 2008 issue 3, Update

背景: チーリン煎剤は、15種の中国薬草の固定配合剤である。これら薬草のそれぞれの特性および配合特性は、脳血管の拡張、脳血流量の増加、血清コレステロールの減少に作用すると思われ、チーリン煎剤の治療的根拠を提供している。従って、本レビューでは、血管性認知症治療のためのチーリン煎剤の有効性と安全性を評価することを目的とする。

目的: 血管性認知症に対するチーリン煎剤の有効性と安全性を評価する。

検索戦略: 2008年3月17日に、用語Zhiling(チーリン)を用いてSpecialized Register of the Cochrane Dementia and Cognitive Improvement Group (CDCIG)、コクラン・ライブラリ、MEDLINE、EMBASE、PsycINFO、CINAHL、LILACSを検索した。CDCIG Specialized Registerにはすべての主要な保健医療データベース(コクラン・ライブラリ、MEDLINE、EMBASE、PsycINFO、CINAHL、LILACS)ならびに多数の試験データベースおよび灰色文献の情報源からの記録が含まれている。

選択基準: 血管性認知症のある人を対象にしたチーリン煎剤とプラセボを比較したランダム化試験。

データ収集と分析: 2名のレビューアが独自に試験の質を評価し、データを抽出した。追加情報については研究著者に問い合わせた。可能な限り有害作用に関する情報を試験から収集した。

主な結果: 本領域では適切なランダム化プラセボ比較試験は存在せず、メタアナリシスはできなかった。

レビューアの結論: 現時点で入手可能なエビデンスは、血管性認知症の治療のためのチーリン煎剤の効能を評価するには不十分である。Naofukangとの比較によるチーリン煎剤を用いた管理に関する客観的データはごくわずかしかなく、チーリン煎剤が血管性認知症に有効であることが示唆されている。

血管性認知症治療としてのチーリンの是非に関するエビデンスはない。血管性認知症におけるチーリンの相対的な有効性と許容可能性を明確にするために、さらなるランダム化二重盲検プラセボ比較試験が至急必要である。

(監訳 江川賢一)

翻訳公開日: 08年11月18日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。